

# 当院の透析導入時の直接穿刺での管理に対する考察

## 1. 研究の対象

2015年4月1日～2017年3月31日に緊急透析導入となった方

## 2. 研究目的・方法

### 目的

末期腎不全により緊急導入を行う際は一般には血液透析である。しかし、バスキュラーアクセスがないため、短期型カテーテルを留置し透析を行う必要があった。短期型カテーテルは内頸静脈または大腿静脈に留置されるが、留置後の感染のリスクは大きな問題であり、また留置後のQOLも下がってしまうことも避けられない。われわれはエコーガイド下に毎回透析針を内頸静脈に穿刺するエコーガイド下内頸静脈直接穿刺法という全く新しい形でのバスキュラーアクセスを実践、その方法での導入期治療を行っている。この方法が果たして安全で、かつ短期型カテーテルと比較し優れているかを検討することは重要であると考え分析を行うこととした。

### 方法

血液透析の穿刺針として、ハッピーキャス N 16G×100 mmもしくは16G×70 mm（いずれもメディキット社）を、超音波診断装置にはLOGIQ Book（GE Healthcare社）を使用し、穿刺部位とプローブは消毒用エタノールを用いて消毒後、エコーゼリーにキシロカイン®ゼリー2%（アストラゼネカ社）を使用し不潔操作の予防を図り、静脈の短軸方向にプローブを合わせ描出する方法で安全に内頸静脈に穿刺。この手順は基本的に短期留置用透析カテーテル挿入の際に行うのと同様の描出法である。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

当院透析導入を必要とした患者について、レトロスペクティブに成績（年齢、性別、維持透析方法、入院日数、アクセス手術までの日数、在宅復帰率、入院費、導入時の臨床データ（Ccr、尿量、電解質、Hb、HCO<sub>3</sub>、血圧）を評価する。

## 5. 研究組織

研究施設：済生会熊本病院 腎臓科部長 副島一晃

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院 腎臓科医長 井上浩伸 TEL：096-351-8000(代)

研究責任者：済生会熊本病院 腎臓科部長 副島一晃

以上